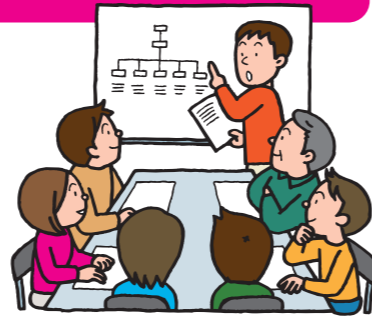


# わがまちはわが手で守る

## 自主防災組織

### 災害に強い地域は、自主防災組織づくりから!

規模の大きい災害が発生した場合、防災関係機関だけでは対応できなくなります。そこで、家庭における防災への準備を進めておきましょう。災害時では、地域ぐるみの防災活動で地域全体の安全を守ることになります。いざというときに被害を最小限に食い止めるのが自主防災組織です。日頃から訓練や講習会を通して、正確な防災知識を身につけていきましょう。



## 自主防災組織の平常時活動

### ●家庭の防災点検をしよう

各家庭で震災時や災害時の安全対策を点検・整備する。



### ●みんなで地域の安全点検をしよう

災害時、地域内に被害の発生・拡大につながる原因がないか、避難の際、支援の必要な人がいないか確認を行う。また防災マップを持って地域の安全点検を行う。

### ●防災訓練と資機材の整備点検

消火器の使用や土のうの作成など、防災活動に必要な知識や技術習得のための訓練を行う。また、消火活動、応急手当、救出、救護、避難誘導の活動用資材の整備点検を行う。



## 自主防災組織の災害時活動

### 総務班

各班との連絡、調整を行う。

### 情報班

町や消防団などから情報を収集し、住民に正確な情報を伝達する。

### 避難誘導班

安全な避難経路を通り、避難場所へと誘導する。

### 消火班

出火防止及び初期消火活動で火災の拡大を防ぐ。

### 救出救護班

負傷者の救出、救護所への搬送、救護活動を行う。

### 給食・給水班

水・食料などの配分、炊き出しなどの給食、給水活動を行う。



## 自力で避難することができない人を支えよう!

高齢者、乳幼児、障がい者、言葉の不慣れな外国人など、災害時に自分の身を守ることが難しい人が多くいます。こうした人たちを災害から守るためには自主防災組織による支援体制づくりが重要です。

### ① 平常時の活動が大切

災害時を想定して避難経路は車椅子で通れるか、放置自転車などの障害物はないか、耳や目の不自由な人への警報や避難勧告の伝達方法はあるのかなど、自力で避難することができない人を考慮した防災環境づくりを進めましょう。子供には日頃から災害時の心構えや過去の教訓を語り伝えるなど防災意識を高める環境づくりが大切です。

### ② 災害時の具体的な支援体制をつくろう

お年寄りや乳幼児を避難させるときは、手をつなぐ、背負うなど、しっかりと保護しましょう。また障がい者に対しては、複数で援助するなど具体的な救援体制づくりをしましょう。



## 応急処置

災害発生時の混乱状態では、救急車はすぐにやってきました。専門的な治療はともかく、初期段階の応急手当は、負傷者のそばにいる人が行わなければなりません。大切な人の生命を救うことができるよう、応急手当の方法を身に付けておきましょう。

### 出血がひどいときは

きれいなガーゼやハンカチなどを傷口に当て、手で圧迫するなど応急手当をし、急いで医療機関へ。(感染症予防のため、ビニール袋に手を入れて押さえるなど、血液に直接触れないように注意する。)



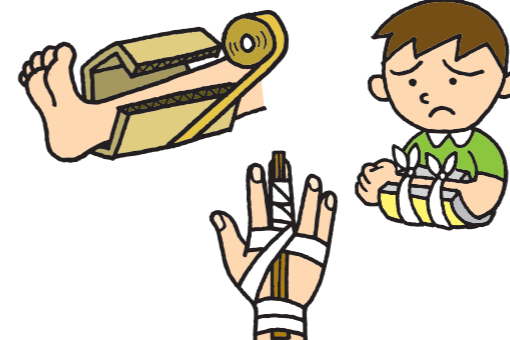
### やけどをしたら

- ① 急いで水道水などの流水で冷やす。
- ② 衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさず、そのまま冷やす。水ぶくれはつぶさない。
- ③ 冷やした後は清潔なガーゼなどで軽く包み、急いで医療機関へ。

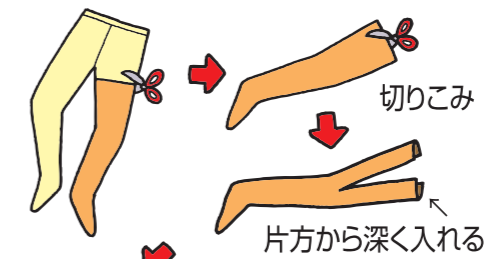


### 骨折の疑いがあったら

- ① 患部を動かさないようにして手当をする。
- ② 患部に副木(なければ板やダンボール、傘、雑誌などでもよい)を当てて固定し、早めに医療機関へ。



### ストッキングを使った応急処置



切りこみが深いほうが肘の内側にくる  
両側を引っ張り背中にもわし結ぶ

### 意識がないときは

# 119番!

- ① 肩をたたきながら耳元で「大丈夫ですか」「もしもし」などと呼び掛ける。
- ② 意識がなければ「だれか来て!」と助けを求め、119番通報を依頼。一人きりの場合は自ら通報を。

